



第38回 全日本中学生水の作文コンクール
和歌山県入賞作品集

表紙の写真『琴の滝』（和歌山県高野町 フォトギャラリーより）

"周参見川の支流広瀬溪谷の遊歩道を登ると、水量豊かに流れ落ちる高さ20m幅4mの滝が見えます。周辺は、春はシャクナゲ、ヒカゲツツジ、秋には紅葉が素晴らしい景観を描き出しています。

あいさつ

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える限りある貴重な資源です。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利用の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうした中、平成二十六年七月に水循環基本法が施行され、水を私たち共有の財産と位置づけるとともに、国民の皆様に、健全な水循環の重要性についての理解を深めていただくため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

この一環として、和歌山県では、中学生を対象に、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しており、本年は、九八〇編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、きれいな水を育む森林の大切さ、断水生活を通して感じた水のありがたさ、水をきれいにすることの大変さなど、普段は忘れがちな水の大切さが伝わってくる作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご家庭や学校でご活用いただき、水についての関心をさらに高めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二十八年七月二十八日

和歌山県企画部長 高瀬 一郎

もくじ

優秀賞

命を支える大切な水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

東 茉那美

・
・
・

1

生活と水

和歌山県立田辺中学校

三年

井本 初音

・
・
・

3

水を未来へ

和歌山県立向陽中学校

二年

松浦 綾子

・
・
・

5

入選

私たちの水

海南市立巽中学校

二年

小澤 美月

・
・
・

7

生命の源

和歌山信愛中学校

二年

加納 愛弓

・
・
・

8

この世で一番大切なもの

和歌山信愛中学校

二年

多計 和子

・
・
・

9

出来る事、すべき事

近畿大学附属和歌山中学校

二年

戸野 偉吹

・
・
・

10

命をくれる水

海南市立巽中学校

三年

山本 真央

・
・
・

11

水を守れ

和歌山県立向陽中学校

二年

上野山 陽太

・
・

1 2

「熊本地震」から学んだこと

和歌山県立田辺中学校

二年

岡本 妃乃

・
・
・

1 3

水と関わる上で大切なこと

田辺市立大塔中学校

三年

嶮口 絢音

・
・
・

1 4

私たちと水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

嶋 来雪

・
・
・

1 5

水の大切さ

近畿大学附属和歌山中学校

二年

辻 愛美

・
・
・

1 6

私たちのくらしと水

和歌山県立田辺中学校

二年

藤原 帆菜

・
・
・

1 7

未来へつなぐ水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

松山 那央子

・
・
・

1 8

宝の水に感謝

和歌山市立有功中学校

二年

宮井 涼羽

・
・
・

1 9

ダムの大切さ

近畿大学附属和歌山中学校

三年

山下 礼以子

・
・
・

2 0

私達にとって水とは

海南市立亀川中学校

一年

山本 伊桜里

・
・
・

2 1

(掲載順序は五十音順です。)

優 秀 賞

命を支える大切な水

近畿大学附属和歌山中学校 3年

あずま まなみ
東 茉那美

川が増水すれば家や橋も流され、洪水が起きると田畑の作物にも大きな被害が出ます。

忘れもしない二〇一一年に東北地方を襲った大津波。水の力の脅威をひしひしと感じたものです。

しかし、私達の地球上に存在する生物にとって、水は大切な資源です。先日の熊本・大分の地震でも、水不足が深刻な問題になりました。最初は飲料水が不足し、時間が経過するにつれ、衛生面や健康面に及ぼす水不足が深刻化しました。顔が洗えない、歯が磨けない、手指が洗えない、トイレが使えない等不衛生な生活を強いられました。

特に高齢者は水分の摂取を控え、たくさんの方がエコノミー症候群になり入院したり、死亡者も出ました。水さえ十分にあれば・・・と、私は悔しくなりませんでした。

私の祖父母が育った時代には、冬の渇水期には、どの井戸も水が減り、みんな水の有る井戸を求めて汲みに行ったそうです。

さらに、お百姓さん達は稲の田植えのために、水路から流れ出てくる水の取り合いで喧嘩をしたり、夜中には田んぼの水の見張りに行ったり大変だったそうです。

私は生まれた時から、水道の栓をひねると、思う存分きれいな水を使うことができました。

熊本・大分大地震の惨状をテレビで見て、水は命を支える大切な資源であることと同時に、水の恐ろしさも痛感しました。

あの大きな土砂災害は、土砂に含まれていた水により、余震が繰り返される度に水分を含んだ大量の土砂が発生し、家屋が倒壊していく。昨日までであった自分の家が、今日は無残な姿なんて考えただけでも耐えられないことです。

水は私達にとって大切な資源に違いない反面、怖さもたくさんあると思います。

そしてそれが当たり前のことだと思つて大きくなつてきたのです。

でも、世界中には、水不足の中で生活している人達が数億人もいるそうです。

外国では国境をまたぐ河川があり、上流の国が多くの水を使用し、下流では水が不足して紛争さえ起きることがあるようです。

私達は、それを外国のことだと安心してはいけません。一人一人が水の使い過ぎに注意することも大切なことです。でもそれだけで水を守り続けることが出来るのでしょうか。今回の土砂災害だけでなく、毎年ようにどこかで雨が降り続き、土砂災害が発生しています。その原因の一つは森林伐採ではないでしょうか。娯楽施設やゴルフ場を作つて利益を得ようとするために水の貯金箱である森林が失われているよう思います。私たち人間の身体も、六割は水で出来ているのです。生きる為には水は欠かせないものです。

私たちが暮らす和歌山県、特に私が育つた紀の川市では、私が生まれてから大きな自然災害を経験したことはありません。ですが、近いうちに起こるであろうと言われている、東南海や南海地震や、和歌山県北部にある根来断層などの直下型地震など、大きな災害が起こる可能性が大変高くなつてきています。その時に少

しても災害を小さく抑えるために、森林を大切にする必要があります。

また、森林を大切にすることで、災害だけでなく普段の生活用水を十分に確保することが出来るのではないのでしょうか。青い惑星地球。この素晴らしい地球を、素晴らしいままの姿で、私たちの子孫に伝えていきたいものです。

優 秀 賞

生活と水

和歌山県立田辺中学校 3年

いもと はつね
井本 初音

た。現在でも農業用水の約五割をため池に依存しており、香川県の県土の総面積に対するため池が占める面積は全国一となっている。

地方紙には、毎日早明浦ダム貯水量が掲載され、学校では遠足でのダム見学だけでなく、多くのため池があることも学習する。日々の生活のなかで、水の大切さを感じながら生活していたそうだ。

私が以前住んでいた和歌山市では奈良県の大滝ダムの水が吉野川を経由し、紀の川を流れ、浄水場を通り家庭まで水が来ると習った。

今、住んでいる田辺市では、水道事業所の方の話によると、水道用のダムは無いそうだ。森林で蓄えられた水が川に流れ、その水が水道用として利用されている。私は、森林がダムのような役割を果たすことで、水道用の水を確保することができることを知り、とても驚き、自然の凄さを知った。

香川県のため池のこともあり、田辺市の農業用の水がどのような確保されているのか疑問に思っていたところ、和歌山県の広報誌に世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」の特集を見つけた。崩れやすい梅林の上部や周辺に紀州備長炭の原料にするウバメガシなどの薪炭林を植えることで、梅の生育に欠

私は小学校の頃、母と遠足の行き先について話したことがある。母は小学生の頃、香川県に住んでおり、バスに乗り高知県の早明浦ダムまで行ったそう。何故こんなに遠くまで行ったのか尋ねたところ、母の住んでいた所では、水を早明浦ダムから引いていたからで、夏の湯水により早明浦ダムの貯水率が減少すると、取水制限があったり、時には、断水になったりすることもあったそう。

香川県の降雨量は、全国平均の三分の二程度である。ダムから水が来なかった時代、農業用水の約七割をため池に依存してい

かせない水を蓄えるだけでなく、土壌の崩落も抑える役割を果たす。梅の育つ土壌を通り抜け、水はため池に溜まり農用水として利用されることもあれば、川に流れていくこともある。そして、稲や野菜等の栽培が可能になる。

梅システムは、何代もかけて自然の中で農家の方々が学んできたものである。農業が水資源を守っているということを忘れてはいけないと感じた。

先日、新聞に熊本県などの一連の地震で、熊本県では、第一次産業に大きな被害を受けているという記事を読んだ。用水路が壊れ、水が確保できず、稲作ができないために少ない水で育てられる大豆に転作する話が載っており、水は農業には欠かせないものとだと痛感した。

この地震により、人々は生活用水の不足にも苦勞していた。行政側が人々に水道管の水漏れを発見したら、水漏れの箇所を教え、ほしいと伝えたところ、多くの水漏れの情報が集まったそうだが復旧工事をするべき箇所が、早く分かったことで、工事に着手できたと思われる。本当に、一日も早く復興して欲しいと願うばかりである。

水について考えたことで、断水という不自由な思いをしたことが無かったこと、田辺市では、自然がダム代わりになっていたこ

とで、農業だけでなく自然豊かな環境も水資源も守られていたことに気づかされた。そして、貴重な水資源を守るための先人たちの知恵と工夫を知ることができた。このことを忘れずに、自分が水と共に生きていくことを自覚し、豊かな水資源に恵まれていることに感謝したい。そして、さらによく、水のことを知りたいと思うと共に、日頃から節水を心がけ、水を大切にしたいと強く感じた。

優 秀 賞

水を未来へ

和歌山県立向陽中学校 2年

まつうら あやこ
松浦 綾子

今の私たちは蛇口をひねるだけで簡単に、しかもすぐに透明できれいな水を手に入れることができる。昔と比べても、はるかに便利な暮らしであることがわかる。

しかし、現代を便利で水に恵まれた時代と言って良いのだろうか。そうは言えないだろう。気にしていないが私たちは水の問題と隣り合わせである。大きく分けて「水不足」と「水質汚染」だ。

「水不足」なんて言葉は「水の惑星」と呼ばれている地球には似合わないと思うかもしれない。私も水道から出る水の量は変わらないのに、そんな問題が起こっているわけがないと思った。

だが、地球が抱えている「水不足」の問題は深刻である。「水の惑星」である地球の中で人間が利用可能な水は、わずか0.01%しかないのだ。

そんな中でも水の使用量は増加し続けているそうだ。特にこの数十年間でアジアの水の使用量は急増している。やはり人口の増加が関係している。人は水無しには生きていけないのだから、当然のことだろう。

もう一つの問題「水質汚染」は、近年、ニュースでもよく見るほどである。そして、水質を汚染している原因の約70%が生活排水であるという。水質が汚染されると水に住む生き物が酸素不足で命を落としてしまう。つまり、私たちが出す排水が、生態系に被害を

私たちは水を必要としている。

朝起きれば、顔を洗う。服を着たら、洗濯をする。食事をすれば、歯を磨く。汚れたら、シャワーを浴びる。トイレにも行く。

このように、私たちの生活と水は密接な関係にある。二十四時間意識はしていないが、私たちは水を必要としている。水が無いと、私たちは生きられない。

与えているのではないか。

この大きな二つの問題を抱えたまま今までと同じように水を使
い続けていけば、いつか限界がきてしまう。

先日、私は和歌山県のビオトープ孟子に行った。そこには「水不
足」を少しでも回避するためのヒントがあったと私は思う。そこで
最も印象に残っているのは、天堤池という溜め池である。

その溜め池に溜まった雨水などが、下にある田に用水路を通って
届くのだ。しかも、その溜め池の堤は、植物の根の力で固定されて
いる。つまり雨が降れば、ため池に水が溜まり、植物は成長してよ
り根を張るのだ。

私はこの関係にとっても感動した。ずっと続いてほしいと思った。
農業に使う水が全て水道水であれば相当な量で確かに大変だ。だか
ら雨水、つまり自然の力を活用するのだ。

私もしたことがあるが、雨水をバケツに溜めるだけでも花の水や
りに使える。自然の力を利用しなくても「水不足」に対抗できる。
水道をこまめに止める。それだけでも実際は大きな違いだ。

「水質汚染」についても方法はたくさんある。米のとき汁は植物
に与えれば水質を汚さずに栄養に変えられる。油を固めて捨てれば
川に流れることはない。

方法は身近にもあふれている。実際、私一人が頑張ってもほとん

ど変わらないだろう。

しかし人間は、水が無いと生きてはいけない。東日本大震災でも、
まだ記憶に新しい熊本で起こった地震でも、いつもは水道をひねっ
て一瞬で出てくる水が給水に何時間もならないと手に入れられ
なくなった。人は失ってからその大切さに気付くのだ。

ただ、水は失ってからでは遅い。私は、水道から出てくる透明な
水を、世界中の人に、そして未来に届けたい。私がしている小さな
取り組み、そして努力を未来につなげたい。

私たちの水

海南市立巽中学校 二年 小澤 美月
おざわ みつき

水は私たちの生活にかかせない必需品です。料理や洗濯、トイレやお風呂など家庭の中でもいろいろな場面では使われています。私たちが今、日々の生活を送っているのは、水があるからと言っても過言ではありません。

しかし、そんな私たちにとって重要な水は自然災害を引き起こすこともあります。東日本大震災では、津波により多くの人々の尊い命が奪われました。津波は、多くの人々の夢や希望を奪いました。私たちに豊かな生活を与えてくれている水は、時に私たちが大切なものを奪うこともあるということ、もう一度、改めて理解しなければいけません。

世界では、約七億五千万人が清潔で安全な水を使うことができません。途上国の子どもたちの水源は、泥やゴミ、病原菌や寄生虫など、命を脅かすさまざまな危険を含んでいます。こうした水を、抵抗力の弱い赤ちゃんや幼児が口にしてしまうと、下痢を起し、脱水症に陥ってしまうのです。汚れた水は、発症から数時間で死に至ることのある恐ろしい感染症をもたらします。このように、世界では多くの人が水によって苦しんでいるのです。世界の人々を助けるために私たちができることは募金を行うことです。募金を行うことで感染症を予防したり、下痢による脱水症状を和らげる薬の購入資金を提供することができます。

私たちは今、きれいな水を使うことができます。これは、当たり前前なことではないのです。世界では、きれいな水を使うことができない人たちがたくさんいるのです。それを理解したうえで、水を大切に使うっていか

なければなりません。

私たちは、洗濯やお風呂、食器洗いやトイレなど、毎日水を汚していません。この汚れた水をきれいにするのが浄化槽です。下水道につながっていない家の、庭の下などに埋まっています。使い終わった水は、この浄化槽を通りきれいな川や側溝に流されます。そこにいる虫や魚にも、悪い影響を与えません。この浄化槽が毎日働けるようにするため、槽内にたまった汚れを掃除したり、どこか悪い所がないか点検などをしていてくれる人がいます。つまり、水を汚すのも人、きれいにするのも人、ということ、そういう仕事をしてくれている人がいるからこそ、きれいな水ができています。

地球は「水の惑星」と呼ばれています。地球の表面の三分の二は水で覆われており、約十四億立方キロメートルの水があるとされています。しかし水資源は今、希少資源と呼ばれるまでになっています。その背景にあるのは、人間の生活様式の変化です。私たちの生活に欠かせない水は、今後どのような影響を与えていくのでしょうか。私たちの生活に利用可能な水資源は、わずか0.0パーセントです。地球上の水の多くは塩分を含む海水で、その割合は九十七パーセント。残りの淡水も、多くは氷雪、氷河の形態で存在していて、利用はできません。アジアでの水利用量は、千九百五十年には八百六十億トンだったのに対し、二千二十五年には三千億トンまで三、六倍に拡大する見通しです。生活が豊かになるにつれ、水の利用量は増加します。将来的には、いつか世界から水がなくなってしまうということもあるかもしれません。

今、私たちにできることは、水を大切に、節約しながら使っていくことです。つい、手を洗う時や、食器を洗う時、お風呂に入った時、水を出さずにはいけません。お風呂の湯に関しては、使った後、洗濯にも利用することができます。このように、世界の人々の一人一人が「水」についてもう少し関心を持つてみることで、世界のいろいろな水問題が、解決されていくのではないのでしょうか。

生命の源

和歌山信愛中学校 二年 加納 かのう 愛弓 あゆみ

生命の星、地球。多様な動植物が生きています。しかし、その生き物達は水がなければ死んでしまいます。

私がそれを実感したのは、家のベランダでのことでした。私は、そこで野菜を育てているのですが、一日だけ水やりを忘れてしまったのです。一日だけだからと思い、次の日見に行くと、せつかく育てていた野菜は元気を失い、葉もしなびていたのです。「たったの一日」水やりを忘れただけで植物にとっては大きな生命の危機につながっていたようです。

しかし、これと同じことが動物、人間にも起こっているのです。安全な水を飲むことはもちろん、汚れてしまった水をくみにいくのも一苦労という人達が世界にはいるのです。安全ではない川や水たまりの水を飲み、病気になるかかってしまう人、中には命を落としてしまう人だっているのです。井戸などからくんだ安全な水を飲む人もまだわずかでしよう。

日本ではどうでしょう。飲み水は蛇口をひねるとすぐ出てきます。川などにくみにいく必要はありません。その上、安全です。普段歯をみがくときに、コップに入れたその水が汚れていて、飲みたくないと思うことがあるでしょうか。今の日本ではほぼ考えられません。

しかし、昔の日本では違ったようです。江戸時代などでは井戸からためた雨水をくみ出していたそうです。そのため、水を効率よく大切に、使用していました。

水道が整備され始めたばかりの頃はまだ上下水道がきちんとできていなかったため、食中毒などが起こっていました。水道の水で食中毒になるなどは、今の日本では考えられないことでしょう。

ただ、今では、安全な水を好きな時に出し、使うことができるようになりましたが、その水の大切さを実感しにくくなってきました。つい、蛇口をひねり続けていても無限に安全な水が出てくると勘違いしてしまうからです。手を洗うとき、無駄に水を流し続けていたり、お風呂でシャワーの水を無駄に出しっぱなしにしたりする人がここ最近多くなってきているような気がします。昔の日本の人々のほうがよっぽど水を大切に扱っていたように感じます。

私は、今の日本の人々の中には、世界には汚れた水を川まで汲みに行っている、その水のためにいつ病気になってしまうかわからない人達がいる事実を知らない人もいるのではないかと思うのです。もし、それを知れば少しは水を大切にしないとイケないと思う人も出てくるでしょう。

私達は、安全な水を、蛇口をひねるとすぐ使えるということがどれだけ幸せなことかを知っておかなければなりません。そして、水がなければどうなるのかと考えるなければなりません。もし、地球から安全な水が、生命の水が消えてしまったらどうなるでしょう。そこに待つのは私の家庭菜園の野菜と同じ命の危機です。

水という存在がどれほど尊くありがたいものなのかを考えてみましょう。どうすれば水を効率よく大切に使用できるかを考えてみましょう。少しの努力でいいのです。少しの努力が集まれば大きな力になります。

さあ、生命の源の水を少しでも効率よく、大切に、無駄なく使ってみましょう。小さな努力が明日の生き物の命を救います。

この世で一番大切なもの

和歌山信愛中学校 二年 多計 たけい 和子 わこ

水で手を洗い、水で服を洗濯し、水で乾いたのどをうるおす。これは日常の生活では当たり前の事です。しかし、この当たり前の事が、どれだけ大切なものなのかを、私は小学生の時に知りました。

それは、小学校で行われた避難訓練が終わった時のことでした。私の学校は、毎日、避難訓練が終わると感想を書きます。今回も同じように、感想を書いていました。鉛筆の力リカリという音だけが教室に響く中、先生がこう言いました。

「みなさんは、この世で一番なくてはならないものは水だと知っていましたか。」

私は驚きました。あの、いつでも飲むことができる水が、この世で一番大切なものとは思えませんでした。他の子も、きよとんとした顔をしていました。一人の子が

「どうしてですか。」

と先生に聞きました。

「水がなかったら、すべてが消えてしまいます。例えば、作物が育たなくなったり、動物達も死んでしまったりしますね。」

先生はそう言うてから、水はいつもどういうことに使っているのか、挙げるように指示しました。先生は児童が言ったことを黒板に書いていきました。歯をみがく時や料理をする時など、たくさん意見が挙がりました。

だんだん意見が挙がらなくなってくると先生が

「地震や津波が来ると、水道が止まってしまいます。ということは、このようにみなさんが挙げたこともできなくなるのです。」

私はそう考えると、ぞっとしました。私は大きな地震や津波にあったことがありません。だから、私は、水がないということを想像したこともありませんでした。

この時から私は、水の大切さについて考えるようになりました。最近しているのは、節水です。例えば、歯をみがく時はコップに水を入れ、水道は止めておく、洗濯は残り湯でする等です。この前ニュースで、熊本県の大地震の事についてやっていました。その内容は、水が足りなくて、歯がみげないという件でした。避難してきた人の中には、六、七十代のお年寄りもいます。お年寄りは、口の中のケアを後回しにしてしまう人が多いらしく、うがいだけで済ましてしまうそうです。その結果、歯にすみついている悪い菌が唾液によって体内に入り、肺の病気になってしまう人が多くいるそうです。そのニュースでは、歯科医さんがお年寄りの口の中を一人一人みがいてあげている様子が写されていました。水の不足によって、肺の病気にかかり、ひどい場合は亡くなってしまう人もいます。もちろん、お年寄りだけでなく、私達ぐらいの世代の人も、今、水の不足で悩んでいることでしょう。

このように、同じ日本という国の中でも、水の不足に悩んでいる人達があります。今、私達が日常でしていることが、水が無くなることによつて、一瞬で消えてしまいます。やはり、水というものは、この世で一番なくてはならないものです。最近、私の住んでいる和歌山県にも、大きな地震がくるということが予測されています。今の熊本県と同じようなことが私達の地域にもやってくるかと思うと、とても怖いのです。しかし、そんな恐怖にも負けず、今、水を大切に扱うことが大切だと思うのです。水は普通にどこにでもあるものではない、いつもの私達をつくってくれる神様のような存在です。その神様を、毎日毎日、大切にすることが、節水になり、少しでも、水不足の人達を助けることができるのではないかと思います。

出来る事、すべき事

近畿大学附属和歌山中学校 二年 戸野 偉吹 いぶき

「紀の川」。僕は、通学する電車やバスの車窓から毎日、この広大な川を眺めている。この川は、和歌山の人々を支える大切な水源である。そして、僕もその恩恵にあずかる一人だ。水には不思議な魅力があると思う。時に嫌な事があつた日も、川を眺めたり、川のせせらぎを聞いているだけで心を落ち着かせてくれる。僕は、今一度、水について真剣に考えようと思う。

去年、我が家のシャワーの蛇口が突然壊れ、水が止まらなくなってしまった。両親が大慌てで止水栓を閉め、その日はシャワー無しの入浴となった。浴槽に溜めたお湯で身体や髪を洗うのに少々、不便さを感じたが、その時、僕は日頃シャワーで沢山の水を使っている事に気付き、シャワーが直つてからは、水の出しっぱなしにとっても注意するようになった。

そして、今年の四月、熊本地震が発生した。連日、被災された人々の様子がニュース映像で流れ、断水の為、自衛隊の給水車から水をタンクに詰めてもらおうと並ぶ長蛇の列。トイレに流す水がない為、僕と同じ世代の人達が、学校のプールの水を利用してしようとバケツで何往復も運んでいるのを目にした。被災者の方々が口々に「お風呂に入りたい。」と言っていたのが印象的だった。毎日、当たり前のように使える「水」は、決して当たり前なのではないと再認識した出来事だった。

祖父母の家へ行つたとき、祖母が洗剤を必要としないスポンジや米のとぎ汁で食器を洗っている事を知った。僕は

「どうして洗剤で洗わないの。」
と聞くと、祖母は

「この方が水を汚さないんですよ。それに、もったいないやろ。」

と教えてくれた。昔の人は、皆、米のとぎ汁で洗っていたそう。先人の知恵は、やはりすごいと感じた。そう言えば、祖母は、よく「もったいない」と言う。例えば「年寄りの二人暮らしたから、二日に一度の洗濯で充分。水がもったいないでしょう。」という風に。この「もったいない」という言葉は、日本人が物を大切にしてきた精神を表す。世界に誇る素晴らしい日本語だと思つた。僕達、若い世代もこの精神を見習つて、水に感謝し、大切に使うていかなければならないのだ。

ある時、僕は「世界で最も貧しい大統領」と呼ばれたウルグアイのホセ・ムヒカ前大統領の事をテレビで知つた。環境について全世界で議論し合う、国連会議でのスピーチを聞き、僕は感銘を受けた。その中で、特に強く心に残つた言葉がある。「ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てば、この惑星はどうなるのでしょうか。」つまり、先進国の人々の過剰な「消費主義社会」こそが、世界中の問題源ではないかと世界に問いかけたのだ。このスピーチを聞き、僕は水源危機も例外ではない、確かに先進国が水も浪費していると思つた。途上国の人々が先進国の人々と同じ量の水を使えば、すぐに地球から水がなくなるだろう。このまま先進国が水の浪費を続けていくのではなく、他国の人々を救う為に、僕達の子孫のために、未来の地球の為に、必要最低限の範囲で使用していく事が、今、僕達に出来る最も重要な事ではないだろうか。

命をくれる水

海宁市立異中学校 三年 山本 真央

私たちが普段当たり前のように使っている水。水がないと、どれだけ大変なのか思い知らされた。

水といっても汚れた水やきれいで安全な水がある。私たち日本人は毎日、きれいで安全な水をあたりまえのように使っている。しかし、あたりまえだと思っただけではないことなのである。

水はなくてはならないものだと思っただけ理由は二つある。一つ目は、熊本地震がおき、現地の人々の生活をテレビで見るときである。地震の影響で何日間か水が出ない時があった。人々は水を飲むことができなく、歯をみがくこともできなく、トイレの水も流すことができないのである。トイレの水を流せないことはとても不衛生で、感染病の原因にもつながることになると思う。ここでまず、水の大切さを知らされた。

二つ目は、安全できれいな水が出ないアフリカに日本人が訪れたのをテレビで見るときである。それは、アフリカの人々に安全できれいな水を利用してもらうために、日本人が地面に穴を掘って水を出すという番組である。私は、地面を掘ってきれいな水なんか出てくるはずがないと思っていた。しかし、何か月間か掘り続けた結果、最初は濁った水がたくさん出てきたが、のちに、とてもきれいで透明な水がでてきたのである。その時アフリカの人々はとても喜び、水を飲んだり、水で頭を洗ったりしていたことを鮮明に覚えている。そして、アフリカの人々が笑顔になった瞬間でもあった。

アジア・アフリカをはじめとする途上国の地域はもろいこと、先進国においても、世界の人々の命、生活、そして経済などにおいて「水」の問題が重要事項となっている。水は人々の健康や命の問題にもつながることなのである。実際に、アフリカなどの世界各国では毎年百八十万の子どもたちが、不衛生な水などを原因とする病気で命を落としているのである。水などを原因とする病気で命を落してしまうのは、日本では考えられないことである。

私たちは今、当たり前のように蛇口をひねると水が出る生活をしている。それは、たくさんの人々のおかげだということを知り、感謝の気持ちでいっぱいになる必要があると思う。そして、生命を育む水を世界のどの地域でも手軽に利用できるようなといい。そのために私にできることは、身近にある安全できれいな水を当たり前のものだと思わず、とても貴重なものであることを再認識することである。再認識することは、とても大きな一歩だと思う。私だけでなく、いろいろな人が水を大切にするようにすれば、大切な一歩を踏み出すことができると思う。

私たちが水を大切にしようとする気持ちがある住みよい社会をつくることになる。そして、生命と地球環境を大切に守ることになるのである。

水を守れ

和歌山県立向陽中学校 二年 上野山 陽太
うえのやま ようた

僕は母の実家、大分が大好きだ。大分県の南部にある津久見市、そこは田舎である。祖母の家の目の前には海があり、祖父の会社のすぐ後ろには大きな山がある。そんな自然に囲まれたような場所なのだ。中学生になってからは勉強と部活が忙しく帰れていない。だから最後に津久見市に帰ったのは小学六年生の夏だ。

六年生の夏、僕は約一年ぶりに津久見市へ帰った。受験があつたので一週間も泊まらなかつた。初日、僕はいつも泳いでいる場所へ向かつた。しかしその場所は、去年までのそことは違つていた。中へ潜つてもその様子は変わらなかつた。海水が汚れていた。まったく先が見えず、少し飲むと口の中に砂のようなものが残り、まずかつた。油が浮いている部分もあつて、母にあまり泳がない方がいいと言われた。泳ぐことを楽しみにして帰つてきたので少し腹が立ち、残念だつた。でも今考えてみれば、これは僕たち人間が原因なのである。魚たち海の生き物のすみかを奪つていることにもなるし、自然と人間の関わりも薄れていってしまう。

この時、祖父が以前見せてくれた夜光虫の事を思い出した。夜光虫とは微生物、プランクトンの一種で水のきれいな海にいる。刺激を与えると緑色に発光する。祖父はある夜、船で沖まで僕を連れて行って、僕に棒で海水をかき混ぜるように言うのと、更にスピードをあげた。何が何かわからず、言われた通りに棒をつっこんでみると、とても鮮やかできれいな色に海面が光つた。しかもそれが進んでいる状態なので、船の後を追ってくるかのようでとても美しかつた。今もその光景は覚えている。後でこれがプランクトンの放つ光だということも教えてもらった。この体験が僕と海、自然

を結びつけるきっかけとなつた。自然はこんなに美しいんだ、そう思った。

しかし、その自然が人間によつて壊され、その海が人間によつて汚されていく。それが僕は許せなかつた。とてももつたいたいと思つた。でも、自分が普段何気なくしている行動が環境破壊、海を汚すことにつながつていく。例えば下水をたくさん流しすぎてしまふと海や川が汚れてしまふ。これは結局、水を粗末に扱い、無駄にし、汚くしていることにつながる。

日本は蛇口をひねれば水が出てきて、飲料水も飲みたいときにいくらでも飲める。しかし、世界には日本のようにすぐに水を確保できる国ではない国もたくさんある。水を手に入れるために命をかけて、片道五十キロメートルある井戸まで歩いて水をくみに行かなければいけない国もあれば、飲める水は植物の水分や雨から確保している国もある。水を飲みたくてもすぐには飲めない人々が世界にはたくさんいる。それなのに日本に住んでいる我々はそんなことも全く意識しないで、必要以上の水を使つたり、自ら汚したりして飲める水をどんどん減らしている。僕たちが捨てている水をその人たちにあげたらどれだけ喜ぶか、そう考えると胸が痛くてなりませんか。水を大切にしようと思いませんか。

僕も水を守ろうと思う。だけど、思うだけではいけない。守ろうと思つたならば、それを夢ではなく目標にし、今自分ができることを考え、それを実行していくのが水を守るといふことだと思ふ。

「熊本地震」から学んだこと

和歌山県立田辺中学校 二年 岡本 妃乃
おかもと ひめの

「地震速報です」

平成二十八年四月十四日、テレビで流れていた様々な番組が全て緊急ニュースに切り替わった。「熊本地震」、その被害はとても凄まじいものだった。前震・本震ともに震度七を記録し、未だに余震が続いている中、テレビをつけてみると一人の女性が取材に応じていた。

「今、一番必要なものはなんですか？」
 という質問に

「水です。蛇口をひねっても水が出ないし、支援物資で届いた水も、全員に行き届いていません。」

と女性は、神妙な面持ちで言った。

そこで私は家族で、「水がなかったら何ができないのか」というテーマで話合うことにした。

「水が飲めない」

「お風呂に入れない」

「トイレが流せない」

このように、言い出したらきりがないほど私達の生活には水が必要なのだ。

一方で、人間は三日間水無し我的生活をすると死んでしまう。しかし、熊本地震により、水源から水を家庭へと運んでくれる水道管が途絶えてしまっているのだ。私は「これからどうやって水を得るのか」と不安になり、ひとまずインターネットで調べてみた。すると、たくさんの物資が入ったトラックの写真に、「待ってる、熊本のみんな！」というコメントを添え、アップされていた。ただ一件だけではなく、何百件も。私は、災害にあっ

た熊本を自分のできる範囲のことを考え、行動している人に心をうたれ、家にあつた水の入ったペットボトルをダンボール二箱分、熊本へ送った。「少しでも多くの人が、この水で元気を取り戻せますように」と願いを込めて。

今、当たり前のように使っている水は、全世界から見るととても貴重なものである。世界の約半分は、水が足りていない状態。また、飲み水として利用できる水の割合は0.01%にも満たない。そう考えると、日本に住んでいる私達の水の使い方には問題があるのだ。蛇口の閉め忘れ、シャワーの出しすぎ…自分自身に当てはまるものがたくさんある。このことから、私は「日本の中で急に水がなくなったら、今までの生活が大きく変化してしまふ」ということを改めて実感した。

熊本地震。この災害から学んだことはたくさんあった。私たち日本人は、安心でおいしい水を飲めて、他の国よりもたくさん水を使うことができているので水の大切さを感じづらい。だからこそ、今回の災害を通して水をムダ使いしているのは「自分自身」であるを知ること、徹底した節水が心がけることを基本とし、普段から、もし地震や津波が起きた時のことを考えて行動することが、一人でも多くの人にたくさん水を届けるための努力だ、と私は思う。

水と関わる上で大切なこと

田辺市立大塔中学校 三年 嶮口 絢音

ささぐち

あやね

人と水には深い関わりがある。大きく二つに分けると、水の事故や水害といった水の力によるものと、人が生活の上で利用するものだ。

私には水に関する怖かった体験がある。今から約二年ほど前、友達のお父さんに連れていってもらい、友達二人と川へ遊びに行った。はじめのうちは流れのない場所で、飛び込んだり、浮き輪に乗ったりしていた。しかしだんだん遊び足りなくなり、流れの急なところで流れてみようということになった。

一人の友達は浮き輪に乗り、もう一人の友達と私は浮き輪につかまった。川の流れに乗ると、とても気持ちが悪かった。

しかし、それが恐怖に変わった。止まることができないのだ。「キヤー」

みんなが悲鳴を上げた。すぐに浮き輪に乗った友達が近くの岩場につかまった。しかし、浮き輪につかまった私と友達はどんどん流されていった。流された先に大きな岩が立っていた。友達はその岩につかまることができたのだが、私は浮き輪を持ったままでつかまることができず流れていった。大きな岩が何度も体に当たり、とても痛かった。「このまま流されてはいけない。」岩に足をふんばり、流されないようにぐつと力を込めた。すると、すぐに友達のお父さんが助けに来てくれた。

川に流されたとき、人の力ではどうにもならない、自然の力を目のあた

りにした。

平成二十三年に田辺市を襲った台風十二号について調べてみると、記録的な豪雨となり、本宮では国道の沿線を中心に民家の二階近くまで水没したということが分かった。

「二階近くまで水没」という言葉に私は耳を疑った。水のせいで道を歩けないというものではない。地面に足をつき立つことさえできないのだ。私には想像もできない光景だ。

私たちが知っている「水」は、ときに姿を変え、大きな力で私たちを、私たちの暮らす環境を襲ってくるのである。

その一方で、人間の体の約六十パーセントは水だということを学校で習った。私たちは日常で非常に多くの水を使う。

その中でも、飲み水は私たちの生命と深く関わっている。「人は三日間水を飲まないで死ぬ」という言葉を聞いたことがある。そのくらい人が生きていくためには水が必要不可欠なのだ。

調べてみると、一般家庭での一人当たりの水使用量は二百四十リットルだと分かった。この量は二リットルペットボトル百二十本分に値する。水と聞くと飲み水を連想するが、使用量の割合としてはわずかだった。水の用途はトイレやお風呂など、生活する上で必要なものばかりだった。

人が生きていくために欠かせないものは水であり、日々の生活の中であたりまえに使っている水は、私たちの生活を支えているのだと分かった。

「人」と「水」。これらは切っても切り離せない密接な関わりを持っている。私たちは身近にある水を大切に使い、ときに襲ってくる水に備えなくてはならない。水による被害を最小限に抑え、私たちの生活を支える水と上手く付き合っていくことが大切なのである。

私たちと水

近畿大学附属和歌山中学校 三年

嶋 しま来雪 こゆき

二〇一六年四月十四日から熊本で地震が発生した。そして、今なお多くの人々が避難生活をしている。ニュースでは現地の被害状況が毎日報道され、私が住んでいる和歌山県でも、至るところで募金活動が行われている。

ニュースを見ていて、「今、必要なものは何ですか？」という質問に対して一番多かった答えは「水と食料」であると感じた。

その時、私はふと水について考えた。水は人間にとってなくてはならないものである。人間は、水分を体の中に取り入れて命をつなぎ、水を使って毎日の生活をしている。水が無い環境では生きていくことはできない。そのような水を私たちは大切に使用しているのだろうか。

水は最も重要で限りある資源の一つであり、いつかなくなるかもしれない。しかし、私たち人間の資源の使い過ぎや、環境破壊が水質汚染を進めている。

私は水質汚染の一番の原因は工場からの排水だと思っていたが、調べてみると、規制によりその排水の水質は良くなってきていて、現在の一番大きな原因は、人口増加や生活水準の向上により増加している生活排水であることを始めて知った。水質汚染の一番の原因は私たちの生活にあることに驚き、少し罪悪感を抱いた。また、人間にその報いが返ってくる気がした。

実際に、水質汚染の影響として、水俣病やイタイイタイ病などの公害による被害が起こり、たくさんの方が命を脅かされ、今も苦しんでいる。人間が原因なのに、その土地の魚や動植物にも影響を与えていて、人間は迷惑をかけていると感じた。

生活排水を少しでも減らすには、合成洗剤などを利用せず、自然に優しいものを利用し、お風呂の残り湯を洗濯に使うというようなことができる。自分にできることを考え、調べるなどして、水の使い方を工夫することが大切である。

日本は、とてもきれいな飲料水を当たり前に飲むことができている。ところが、世界では毎日約四千九百人、つまり、年間約百八十万人も子どもたちが不衛生な水しか得られないために命を落としており、半径一キロメートル以内一人一日二十リットルの水を確保できない人が世界には九億人弱もいるそうだ。このような地域もあることを知り、自分たちが恵まれているということに自覚する必要があると思う。

私たち一人一人がきれいな水をずっと守っていくために今できることは、まず、水を汚染してむだ使いをしているのが自分であることを知ること。また、一人一人が水の使い方を見直し、節水などのちよつとしたことを積み重ねていくこと。そして、自分や今のことだけを考えるのではなく、地球や水の問題の解決に協力することだ。私もできることから始めようと思う。

水の大切さ

近畿大学附属和歌山中学校 二年 辻 つじ 愛美 まなみ

水が大切なことは誰でも知っていることです。しかし、水は絶えず身近なところであり、普段はあまり水の大切さを実感することがありません。私が生まれたのは今から十三年前で、私は生まれてから水不足の経験がありません。だから、水に困る生活というものが実感できませんが、母に聞くと、私が生まれる少し前の夏に雨が少ない年があり、水不足を心配した年があったそうです。

和歌山市には紀ノ川があり、私たちの水道水は紀ノ川から得ています。紀ノ川の水源は奈良県の大台ヶ原というところであり、雨の多いところであるため、和歌山市は水に恵まれていると聞いたことがあります。私は自分の住んでいるところが大きな川に恵まれていて、幸運だと思っています。しかし、大きな川に恵まれているだけでは安心ではないと思わせる出来事がありました。

今年四月に熊本県で大きな地震があったのは記憶に新しいことですが、災害が起こるといつも水について考えさせられます。災害が起こってまず必要となるのは食糧や飲料水の不足です。私たちが毎日当たり前のように使っている水が、蛇口を開けても出てきません。多くの水道管が破裂し、復旧までに多くの時間がかかる地域もあります。大人も子どもも水を求めて並ぶ姿を見て、蛇口を開けると当たり前のように水が出る生活を送ることができない私は、なんて恵まれた生活を送っているのだろうと感じました。次に必要なってくるのが生活用水です。お風呂やトイレを流すことは言

うまでもなく、洗濯に使う水、料理に使う水、食器を洗う水など、私たちの生活には欠かせないものばかりです。今、私の周辺で災害が起こったら、水が不足した中で私は生活できるのだろうか、とても不安な気持ちになりました。

今回、改めて水について考える機会を得て、水の大切さを実感することができました。では、今私は水とどのように関わっていけばよいのでしょうか。

私は毎日多くの水を当たり前のように使って生活をしています。水を飲まない、トイレに行かない、お風呂に入らない、洗濯をしないなどということはできません。だから、少しでも自分にできることで水を大切にしながら生活を送っていききたいと思っています。

例えば、シャワーを使う時、食器を洗う時、歯をみがく時など、水を出したままにしないことを心がけたいと思います。それから、洗濯はまとめて洗うことも大切だと思います。また、必要以上に勢いよく水を出すことにも注意したいと思います。

最後に、災害等が起こった時に備えて、とりあえず飲み水を確保しておく必要があると感じました。東日本大震災の時にも感じたことですが、五年が経過しているために、少し忘れていたように思います。

水は人間が生きていくために、何よりも大切になるものです。今後も水を大切に使いしていきたいと思っています。

私たちのくらしと水

和歌山県立田辺中学校 二年 藤原 帆菜
ふじわら はんな

一昨年の春休み、私は家族旅行でオーストラリアを訪れました。オーストラリアは人間が住む大陸の中で、最も乾燥している地域で水不足が頻繁に起きています。原因は、「本土の約八十パーセントが砂漠でできていること」、「抵降水量、高温の砂漠気候の地域が広く存在すること」の二つだと考えられています。

私たちは、蛇口をひねれば必要な量の水を得られる生活を送っています。日本に住んでいると、「水に困る」という経験をするのがないので、水の大切さを考えることは、あまりないのではないのでしょうか。私も実際、オーストラリアに行ってみるまで、日本の水資源の豊富さにあまり気がついていませんでした。

オーストラリアでは、蛇口をひねっても日本のように水の量を調節したり、温度を調節することがなかなかできません。また、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで売られている飲料水はコーヒーよりも値段が高いことがたくさんありました。

調べてみると、水不足が深刻な問題となっているオーストラリアでは、水の使用制限が政府を通じて行われているそうです。水の使用方法に関していえば、例えば、庭に水をまく場合や洗車の際にはホースで水を出すことは禁止されています。ただ水の使用量を抑えるように指示するのではなく、水の使い方にまで政府が細かく決めているのです。また、水の不正使用をしている人はいないかを見回りをし、チェックする巡視員もいます。不正使用が見つかり、二回警告されると罰金が科せられます。政府や国家をあげてまで徹底して水の利用を制限しなければ、オーストラリアの水不

足はどんどん深刻になっていくそうです。日本では考えにくいことが、実際に起きていてとても驚きました。

日本では、オーストラリアのように政府や国家をあげては水不足問題に取り組んではいませんが、本当にそれでいいのでしょうか。

私はこの作文を書くにあたって、自分が日常生活の中でどんな時に水を使っているのかを意識してみました。例えば、地震などの自然災害が起こった時、それぞれの家庭で水の確保はできるのでしょうか。私の家では家族五人分の飲料水を確保していますが、水洗トイレや清潔を保つための水はとても足りません。

四月十六日に起こった熊本地震でも水不足が深刻でした。使える水がなくなつて初めて、私たちは水の大切さを実感するのだと思います。そういう状況にならないければ、実感できないことは仕方ないかもしれませんが、一人一人がもつと意識する努力は必要だと思えます。

蛇口をひねる時。流れてくる水があたりまえでない時や場所があるということを、心に留めておくと、私は自然と節水するようになりました。

私一人では小さな節水かもしれませんが、みんなが水を意識することが増えれば、大きな力になって、水を守ることもつながるのではないのでしょうか。

未来へつなぐ水

近畿大学附属和歌山中学校 三年 松山 那央子
まつやま なおこ

去年の夏休み、私は美術の課題であった川の絵を描くために両親が提案してくれた龍之渡井へ出かけた。龍之渡井がどんなところであるか知らないまま足を運んだ私は驚いた。穴伏川に架かったレンガと石張り造りの橋の上を水が流れていたのだ。この水は小田井用水という水路の一部らしい。小田井用水とはどんなものか、また、なぜ川の上に水路を作ったのか疑問に思った私は詳しく調べてみることにした。

小田井用水は五百九十二ヘクタールの水田を灌漑している。小田井用水ができるまでは和泉山脈から流れる沢水やため池で灌漑していたのだが、常に水不足に悩まされていた。そこで千七百七年に大畑才蔵が開削したのだ。非常に緩い勾配で水路をつくり、水道橋や伏越を立体交錯させることで水が届く範囲を拡大させ、多くの人々を助けた。川の上に水が流れていたのは、紀ノ川の水をより遠いところまで引くためだったのだ。作られた水道橋の中でも、龍之渡井は特に難工事だったそう。

これらの事を調べて、私は紀ノ川から少ししか離れていなくても高台が多いために水不足で苦しんでいたのだと分かり、現代では日常の中で生きていくために必要な水がすぐ手に入って当たり前だが、それはすごく幸せなことなのだと改めて感じた。以前、和歌川について調べたときも、魚や鳥が住める環境にするために水質を悪化させる仮堰を撤去したり、護岸を設置したりする取り組みを行っていたことを思い出した。身のまわりに何気なくあるきれいな水は、様々な努力や工夫によって守られているのだ。

しかし、現代の人々はそのことを忘れてしまっているように思える。小

田井用水にはポイ捨てされたゴミが流れ、水道水は必要以上に使われる。私自身、母にお風呂の残り湯を洗濯に再利用して無駄使いしないようにしていることを教えられたとき、蛇口からいくらでもきれいな水は出てくるのになぜそこまで節約する必要があるのだろうと思った経験がある。このままではせっかく今まで守り続けてきた美しい水が消えてしまう日は遠くないと私は考える。

そこでこれからは、私たちが水についてよく知り、その価値を感じるこ
 とが重要になってくるだろう。そして、周りの人たちに水を大切にす
 る気が
 持ちを分け合って、水を守るために行動してほしい。一人一人がほんの少
 し心がけるだけでも大きな違いになるからだ。龍之渡井のように、私達も
 未来へ水をつなぐ架け橋になることはできるだろうか。

宝の水に感謝

和歌山市立有功中学校 二年 宮井 涼羽
みやい すずは

私は、なぜ目にする水は全て透明で透き通っているのだろうと不思議に思ったことがあります。家や学校など、いろいろな場所の水道をひねっても出てくる水は全てきれいです。このように、水というのはキラキラ輝くきれいなものというのが一般的な水への印象だと私は思います。

しかし、昔と今の水を比較すると、どちらの方が使いやすく、また、きれいなのだろうかと思うと不思議に思います。なぜなら今の水の美しさから汚れている水は想像できないからです。この疑問を資料で調べてみることにしました。すると、今の私には想像できない結果が書かれていました。それは、昔は水を飲んで病気になったりもしたということがわかりました。今の生活では、ありえないことなのです。驚きました。では、なぜ今はそのようなことが起こらないのか詳しく調べてみることにしました。川の水が私達の手元に届くまでにはたくさんの機械や時間、手間のかかる作業があるということが分かりました。手元に水が届くまでにはポンプで五か所の配水池に送られ、私達の所に届けられています。私はこの資料を見て、水というのはたくさんの方の手間がかかると思い、たった一滴の水だとしても大切に使用しないといけないと感じました。特に、私は家に居るときによく水を出しっぱなしにしてしまうことがあるので、気を付けたいと思います。

また、私はよくキャンプに行くのですが、その際に川にみそ汁を流している人を見たことがあります。川の水というのはとても冷たく、自然の恵みから生み出されたきれいな水です。その水にみそ汁を流してしまうと、大変汚れてしまいます。そこで、私は普段使っている台所に水以外のもの

流すと、どうなるのか調べました。みそ汁おわん一杯を流すと、透明できれいな水にするまで浴槽九杯分の水が必要だということがわかりました。さらに使った油を鍋半分流すと、浴槽三百三十杯分の水が必要だということも分かりました。この結果に、今までの私を思い返すと後悔しかありません。このような情報をたくさんの人に知ってもらおうことで、水をきれいにする手間が省け、自分達のためにもなると考えました。

私は「水ときらめき紀の川館」という所に、普段よく使う水について学ぶために見学に行きました。そこは、川の水量に合わせて動かすゲートなどを見張っているところです。決められた水位をいつも保っておくためのゲートです。水というのはいつでもあるわけではなく、昔には川の水が全て無くなって、とても大変な時期があったということを知りました。さらに世界各国では、水というものが存在しない所があります。今の私たちの生活の中では当たり前に使っている水は、もつと大切に使うべきではないかなと思います。「水ときらめき紀の川館」では、一年中ずっと働いていると聞きました。その一言を聞いた時、私は、水というのはたくさんの方の思いが詰まった宝の水なのだと感じました。

普段から水というものに感謝しながら使いたいと思います。

ダムの大切さ

近畿大学附属和歌山中学校 三年

山下 礼以子

やました れいこ

水は怖いです。二〇一一年三月十一日に起こった東日本大震災では、津波で約一万四千人の方々が亡くなりました。わずか三十センチの水でも、大人の男性がバランスを崩すといえます。また、二〇一一年八月二十五日から九月五日にかけて台風十二号が和歌山県や奈良県、三重県に上陸しました。その豪雨によって川が氾濫し、紀伊半島大水害として知られました。

洪水や河川の氾濫も恐ろしい水害です。しかし、大雨が降るたび氾濫が起こつては、周りに住む人々が毎日おびえながら生きなければいけません。そこで、ダムが活躍します。

日本には平成十五年において全国で三千九十一ダムがあります。このうち国土交通省が管理しているダムは百二十八ダムで、建設中なのは五十五ダムです。このようにたくさんあるダムは私たちの暮らしに欠かせないものです。

ダムは、洪水調節、河川維持用水、灌漑用水、上水道用水、工業用水、発電、消流雪用水、レクリエーションなどのさまざまな役割があります。その中でも主なのが「洪水調整」「水資源の確保（水道用水、工業用水、農業用水など）」「発電」「河川環境の保全（流水の正常な機能維持）」の四つです。主であるということは、それだけ大事であり、私たちの暮らしに深く関わっていると言えます。

明治以降の日本の政策により、木々は資源として伐採されました。河川

に沿って人の住居が広がっていき、稲作などの農業も水の得やすい川沿いを中心に発達していきました。しかし、台風や大雨、梅雨や秋雨の時期の長期にわたる降雨など、限度を超える流入による水害は常に人々の暮らしをおびやかしてきました。堤を築いたり、川幅を広げたりして対処しても、大きな流入には対応しきれません。そこで河川の流量自体をコントロールすることが検討され、この実現がダムによってなされたのです。例えば、台風情報などにより大きな降雨が予想される場合、その低気圧の規模などからだいたいの降雨量を予想し、その分を先に放流・発電などにより流しておくのです。

また、ダムは飲料水の取水も行っています。更に、建設時の空地やロックフィルダムの広大な斜面などを利用して公園なども作られています。休日には家族連れなどでにぎわい、バーベキューやキャンプの施設が付随している場合もあります。

水が氾濫するのを防ぐためにダムを作り、そのダムは発電もするし、公園やキャンプ場などの施設も作り、楽しむ場を与えています。元々は水の氾濫を防ぐために作っていたのに、もっと楽しい場所にしよう、という一つの事を終えてもそれ以上を追及する、前向きな気持ちを感じられました。もし困ったことが起こつても、それすら楽しい方向へ持って行こうとする考え方は素晴らしいと思います。安心感を与え、支えてくれているダムに感謝の気持ちでいっぱいです。

私達にとって水とは

海南市立亀川中学校 一年 山本 伊桜里
やまもと いおり

水は、私達にとってなくてはならないものである。水がこの世から無くなってしまうとしたら、私達は生きていけるのだろうか。日々の生活の中で、水はよく使われている。洗濯や洗い物などの家事、お風呂、トイレなど、考えてみれば、私達は毎日いろんな場面水を使っており、水を使わない日は無いだろう。そんな私達に欠かせない水が使えなくなったら、生活の中で不便なことがたくさん出てくるのではないだろうか。

私が、水の大切さを改めて考えさせられたのは、先日の「熊本大地震」だ。私の祖父は熊本に住んでおり、幸い無事ではあったのだが、住まいが五階建て団地の一階部分なので、また地震が来て建物が崩れるのが怖かったため、しばらくは車内で寝ていたそうだ。電気や水道なども止まってしまい、会社の井戸水を汲んできて、トイレを流すための水に使ったのだと言っていた。

テレビをつけると、ニュースなどで熊本の震災後の様子が毎日のように映し出されていた。被災地の人達は、なるべく水を使わないように工夫をしていて、食器を洗わなくてもいいように、お皿にラップをかけて食事をしたりすることもあった。また、子ども達が何往復もして、トイレ用に学校のプールに溜まっていた水を運んだり、マンホールから水がもれ出しているのを見つけた人が、ポリタンクで受けたりしていた。普通、生活の中では、そのような大変なことをする人はあまりいないだろう。なぜなら、蛇口から当たり前のように水が出てくるからだ。人々の生活の中で、水がどれだけの役割を果たしているのか、どれだけ大切に必要なのなのか良く分かる出来事だったと思う。

しかし、時にはその水によって私達が被害にあうこともある。例えば、震災で津波が来て、家や人が流されてしまったり、和歌山の熊野の方でも、台風による大雨で土砂災害が起り、川も氾濫したことがあったようだ。災害だけでなく、ずっと降り続けていたり、大雨になると水の量が増えていろいろ大変なことが出ると思う。

このように、水は私達の生活に欠かせないものなのだが、時には私達に被害を与えるものとなるのだ。

水は、人々だけでなく「動物」そして「植物」にも必要なものである。動物たちの生活にも水は欠かせないものだと思うし、魚は水が無いと生きていけない。植物も、水やりをしないと枯れてしまう。先に述べたように、私達人間にも、生きていく上で水は大きな役割を果たしている。

当たり前のように使われている水も、地球上の生物にとって、すごく大切なものである。だからこそ、私達は普段から節水を心掛け、水を大切にしていかなければならない。

第38回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第40回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073(441)2423
- ⑤募集期間・・・平成28年5月7日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2 応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
11	980	318	418	244

3 審査

応募作文980編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞3編、入選5編佳作10編あわせて18編の入賞作文を決定。

（協力 和歌山市中学校国語教育研究会）

4 表彰

（1）賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

（2）表彰式

優秀賞の受賞者を平成28年7月28日、和歌山県庁において表彰

第40回

8/1は水の日

8/1~7は水の週間

水の貴重さ、大切さを考える取り組みを実施しています。改めて、私たちの「水」について考えてみませんか？



水とめぐる水のめぐみ



健全な水循環により、水の恵みを楽しむ社会を目指して。

主催：水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会 ほか
後援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省 ほか

「水の日・水の週間」に関する行事等の情報は、官邸ホームページ、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください。

水の日水の週間

検索

2016年度ミス日本「水の天使」須藤優子